

特集②

第五九回研究例会

前近代東アジアにおける術数文化の伝播・展開

——ベトナムと日本・中国を中心として——

二〇一七年十月十日（土） 於 立教大学池袋キャンパス 八号館 八三〇三教室

〔主催〕 立教大学日本学研究所

〔共催〕 日本学術振興会科学研究費基盤研究（B）「前近代東アジアにおける術数文化の形成と伝播・展開に関する学際的研究」（課題番号一六H〇三四六六、研究代表者…水口幹記）

【開催概要】

第五九回研究例会「前近代東アジアにおける術数文化の伝播・展開——ベトナムと日本・中国を中心として——」

二〇一七年十月十四日（土） 午後二時三〇分～五時三〇分
於立教大学池袋キャンパス 八号館 八三〇三教室

Phạm Lê Huy（ファム・レ・フイ。ベトナム国家大学ハノイ校講師）

佐野 愛子（明治大学大学院博士後期課程）

佐々木 聡（大阪府立大学・日本学術振興会特別研究員PD・本研究課

題分担者）

水口 幹記（藤女子大学准教授・日本学研究所所員） *趣旨説明・司会

鈴木 彰（立教大学文学部教授・日本学研究所所員）

*総合司会・コーディネーター

【開催趣旨】

「術数」とは古代中国で成立した陰陽・五行の数理に基づく吉凶判断であり、前近代を通じて東アジアの国々に広く伝播し、それぞれの社会に深く浸透してゆくことで、それぞれの民族文化の形成にも強い影響を与えた。しかしながら、主に議論されるのは中国での形成・展開の問題であり、「術数文化」の諸国・諸地域への伝播・展開について論じられることはさほど多くはない。そのため、昨年の本研究第五十七回例会において、朝鮮半島と日本・中国を射程に入れ、このような「術数文化」を文化交流史・比較文化史の観点から議論をし、引き続き対象を広くもち検討すべきことを確認した。そこで、今回はベトナム及び日本を中心検

討対象として、中国文化の周辺地域への伝播・展開の諸相を明らかにする議論の手がかりとしたい。さらには広く「術数文化とは何か」を考える契機としていきたい。

（文責・水口 幹記）

【発表要旨】

ベトナム李朝期の祥瑞について

Phạm Lê Huy

李朝の皇帝たちは、他のベトナムの王朝に比べて祥瑞に対して格別の関心を示した。それは『大越史略』や『大越史記全書』といった編年史にみられる祥瑞関係記事の密度から窺える。従来、当現象を客観的な事実として触れる論文は多々あったのだが、その原因分析及び個々の祥瑞の意味合いを詳細に検討する研究はほとんどなかった。

本報告では、越裳氏の伝統、南郊儀式における馴象などの事例を通じて、宋越の外交関係における祥瑞の役割をまず分析し、また安南がそれを貿易や文物の輸入に積極的に利用したことを明らかにした。加えて、大中祥符五年（一〇二二）、安南の使者が宋真宗による龍圖閣公開の儀式に参列し、それを国内に伝え、祥瑞へ関心を刺激した時代背景も明らかにした。

その上で、「黄龍」「麒麟」「鳳凰」「六辟亀」など李朝に出現した個々の祥瑞を分析した。「黄龍」は、正統性を疑問視された皇帝のみならず、皇帝になる野心をもつ王子、また彼らを裏付ける勢力にも積極的な利用された祥瑞であった。李朝は度々「麒麟」を北宋に朝貢し、貿易の利益

を図っていたが、その「麒麟」に疑問を投げかけ、困惑した北宋の姿を分析した。なお、「麒麟」や「六眸亀」は、全く想像されたものではなく、ベトナムの自然に実在した一角犀や六目亀であることも明らかにした。李朝期の祥瑞そのものだけではなく、祥瑞の意味合いを占いする手段（周易）や集団（僧、儒学者）も明らかにした。

『えつでん 粵甸幽霊集録』における災異——逆水・逆流を中心に

佐野 愛子

開祐元年（一三二九）、李済川によって編纂された『えつでん 粵甸幽霊集録』には、大越（現在の北部ベトナム地域）で活躍した三十位の神の事績が、「歴代人君」、「歴代人臣」、「浩気英霊」の三つに分類されて記されている。その中に「佑聖顕応王」という神があり、これは現在のベトナムでも有名な山精と水精を扱った物語である。その内容は、雄王の娘である媚娘に山精と水精が求婚し、雄王は礼物を早く持ってきた山精に媚娘を与えた。これを恨んだ水精は水族を率いて山精を攻めたが、勝てなかった。それから毎年、水精は洪水を起こした、というものである。

本話は、大越に毎年、洪水の起こる理由を記したもので、この話からは、大越の人々にとって、洪水がいかに大きな災害であったかがうかがえる。そのような視点で『えつでん 粵甸幽霊集録』をみると、大越の神々の多くが、川や河口、川と川の合流地など、川沿いに集中して祭祀されていることがわかる。また各話の内容は、祭祀場所には関係なくとも、川にまつわることが多く、川に関する記述の多さは、『えつでん 粵甸幽霊集録』の特徴の一つと言える。

そこで本発表では、『えつでん 粵甸幽霊集録』の数ある川の記述のうち、「逆水」という表現に注目したい。具体的には、死体が川を逆流する説話について考察する。本来、流れに沿って下ってゆく死体が、川を逆流することの意味をひもといてみたい。

越南漢籍に見える天文五行占書の受容

佐々木 聡

天文五行占書とは、祥瑞災異思想を背景とし、天変地異や怪異現象から、国家や個人の吉凶を占う書物である。天文五行占書の多く（特に勅撰系占書）は、「天文私習の禁」により天文官以外には容易に閲覧できなかったはずだが、一部は民間に流布し、海外に伝播した事例もある。

そこで本報告では、まず日本や韓国への伝来状況を提示し、その上で報告者が近年、調査を進めてきたベトナム（越南）における天文五行占書の受容について検討する。

ベトナムには、明末以降、『天元玉曆祥異賦』や『管窺輯要』などの天文五行占書が伝来しており、これは日本や韓国の状況とも共通する。『天元玉曆祥異賦』は勅撰系の天文五行占書だが、明末以降、広く民間にも流布した。また『管窺輯要』は清初の官撰占書だが、天文五行占書としては珍しく刊本で流布した。こうした状況から、両書は国外に伝播しやすかったと考えられる。

ただ、ベトナムの場合、日本や韓国とは違って、完本の天文五行占書がほとんどなく、伝存するのは現地で節略・再編された一冊本ばかりである。今日なお舶来漢籍の多くが公開されていないとはいえ、現地で精

写・翻刻された天文五行占書がほとんど確認できないのは特徴的である。

こうした中で、唯一完本として確認できるのが、フランス極東学院にマイクロ・フィルムとして残る『天元玉曆祥異賦』（原本の所在は不明）である。本報告では当該資料に基づき、ベトナムにおける怪異解釈の相違などの特徴を明らかにしたい。